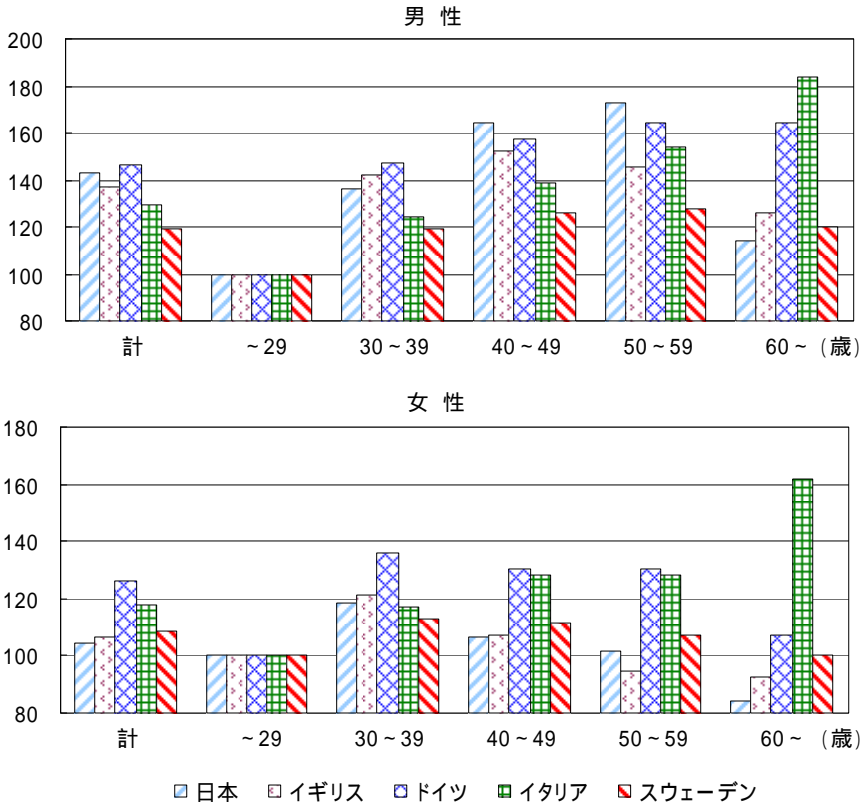


6-3 賃金の年齢階級別格差（製造業）



▶ グラフの具体的数値および資料出所については、「第6-4表 賃金の年齢別格差（製造業）」(p.171)を参照。

グラフは日本、イギリス、ドイツ、イタリア、スウェーデンについて、29歳以下の賃金を100としたときの年齢階級別賃金指数（格差）である。

まず男性についてみると、日本では、年齢階級が高くなるにつれて格差が広がり、50～59歳で最大約1.7倍となるが、60歳以上になると差は縮まる。他の国々において、29歳以下賃金との最大格差を持つ年齢階級層は、イギリスの40～49歳（1.5倍）、ドイツの60歳以上（1.6倍）、イタリアの60歳以上（1.8倍）そしてスウェーデンの50～59歳（1.3倍）である。一方、女性の場合は、男性に比べて年齢階級間の賃金格差は概して小さいといえる。

これらの数値を理解するためには、さらに、年齢階層別の労働力率の数値もあわせてみる必要がある。特に、EU諸国において高齢者の労働力率が低いことは注意すべきである。